

【活動テーマ】 生徒が主役の GAP 活動

～進化と深化から見えてきたこと～

【紹介】帯広農業高校です。よろしくお願いします。活動報告に先立ちまして、帯広農業高校（以下：帯農）は GAP 認証を取得して4年目となりました。農業科学科の生徒の約7割が『GAP チーム』に所属しており、総勢 86 名で認証取得に向けて取り組んできました。

【GAP クイズ】突然ですが、帯農 GAP クイズ！！

設問 『帯農 GAP』が成り立っている理由とは何でしょう。

- 1 先輩方と一緒に学年の枠を超えて、横のつながりがあるから
- 2 やる気のある生徒が多いから
- 3 先生方の圧（×あつ）じゃなくて、熱（○あつ）がスゴいから

答えは・・・実は3つとも正解です

【活動報告】

それでは質問の1からご紹介します。

帯農でこの活動に取り組む農業科学科では、生徒 111 名に対して GAP チームに所属している生徒が全部で 86 名います。学科全体の7割以上がチームに在籍し GAP 活動に励んでいます。

〈写真1:GAP チーム大集合〉



先ほども申したように、3 学年合計 86 名の組織となっています。今年はチーフ・サブチーフを中心とした 10 チームに分かれて取り組みました。主要なチームとして“チーム・サブチーフチーム”、“作物チーム（さらに認証作物ごとに分かれます）”、“機械チーム”などがあり、必ずどこかに所属します。チーム内は各学年バランスよく人数配分し構成され、3 年生を先導にリーダーシップを発揮しつつ、互いに教え合いながら横のつながりの強化に努めています。（写真1）

横のつながりをもつため、月に1～2回全体で集まる“GAP ミーティング”というものも開催しています。（写真2）全体が集まり話を進める際には“帯農 GAP 通信”を配付し、情報共有に活用しています。記載する内容も各チームから得た情報源をもとに集約、毎回ネタ探しから取材、作成、編集にいたるまで自分たちで行っているため、高校生記者は大変です。

〈写真2:GAP ミーティング〉



認証取得に向けて、教育訓練の分野などやるべきことが多岐に渡る中、自身が所属するチームとは別の動きもあります。一部を紹介すると、“GAP 勉強会”や“経営者（校長先生）への説明”などですが、この時にはチームの枠を超え、このためだけに選抜されたメンバーが一同に会し、企画・運営を行います。

続いて、質問の2について紹介します。農業科学科には将来の自営者・後継者の数が多く、GAP チームの中ではその数50人と半数以上を占めています。そのため、農業が好きで農業に積極的に取り組む姿勢がとても高いと言えます。

右の写真3は夏休み期間中に行われた恒例の“GAP WEEK”の様子です。施設や設備の整理整頓や片付け、周辺環境の整備などを1週間集中して行います。大変なこともありますが、笑顔あり、笑いありの楽しそうな様子が伺えます。このような状況からもやる気のある生徒が多いことがわかんと思います。

〈写真3:GAP WEEKの様子〉



〈写真4:3名の指導員誕生〉

最後に質問の3について紹介します。先生のご指導があるから。については、学科の先生方の熱いご指導のおかげで、GAP チームに所属しているメンバーは“話すこと～自分たちの活動や思っていることを表現する力～”、“聞くこと～互いの話を聞き、共有し次に繋げる力～”、辛い時こそ励まし合う団結力などさまざまな力を身につけられていると思います。卒業した3年生から毎年GAP 指導員が誕生しているのも、このGAP 活動を通して培った力の賜物です。(写真4)



先ほども少し紹介しましたが、右の写真がGAP 通信です。

生徒が自主的に作成し、GAP ミーティングでこの通信を活用して情報共有を図っています。学校のホームページをご覧くださいと、広報担当橋爪君のコメントなども載っています。活動を随時紹介していますのでこちらもぜひ。現在チームが新たに取り組んでいるのが、“高校生GAP おもしろ動画”と“高校生のGAP～日常のリアルな3コマ漫画”です。初の試みですので、どのような着地点になるかはわかりませんが、皆様方に「プッ」と笑っていただけるようなものを只今作成中です。

〈写真5:生徒作成 GAP 通信〉



地域向け成果報告会や認証報告会も行っています。(写真6)

チームの成果や課題を明確にして、帯農GAPをより良いものへステップアップすることが目的です。令和4年度の新たなチームが発足し、すでに更新審査に向け準備が進められています。

【帯農生らしく】

課題はたくさんあり、すぐに解決できる事の方が難しいのですが、それでもこの課題1つ1つを克服しながら、帯農生らしく「GAPに興味があるけどどうしているのか。」と不安に思っている方に少しでも光を照らせる的存在になれたらと思います。

〈写真6:地域へGAP普及〉

